

## 「ステファノ、逮捕される」

2016年03月25日

使徒言行録6章8節～15節。さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るの、齒が立たなかった。そこで、彼らは人々を唆して、「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのを聞いた」と言わせた。また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

ステファノはエルサレム教会で日々の分配（食事）が公平に行われる務めに任じられた人である。彼は恵みと力に満ち、素晴らしい不思議な業とするしを行った。カリスマ的人間として奇跡を行い、民衆の心を捉えていた。このことを妬ましく思う二つのグループがあった。一つは、キレネ州とアジア州出身の「解放された奴隷の会堂」に属する人々である。「解放奴隷」とは戦争捕虜としてローマに連行された後、解放された者たちである。もう一つは、キリキア州とアジア州出身の者たちである。彼らは皆、散らされたユダヤ人（ディアスポラ）で、エルサレムに帰国した熱狂的なユダヤ教徒であった。彼らはステファノを妬んで論争を仕掛けたが、知恵と霊によって語るステファノに齒が立たず、議論にもならなかった。嫉妬と怒りに燃えた彼らは人々を唆し「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのを聞いた」と言わせた。モーセは神からの、ユダヤ教徒の信仰と生活を定めた規範である律法を授けてくれた人で、ユダヤでは最高の尊敬を受けている。そのモーセと神を冒瀆した。これは、断じて許されないことである。彼らは民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕え、最高法院に連行した。そして、偽証人を立て「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう』」と言わせた。「この聖なる場所」とはエルサレム神殿のことで、ユダヤ教徒には信仰の拠りどころであり、魂の故郷であった。エルサレム神殿と律法をけなすことは、即、死罪となる。彼らは、ナザレのイエスがエルサレム神殿を破壊し、モーセの律法を変えると語っていると云わせた訳である。これらが偽証であれ、ユダヤ人には聞くに堪えないことであった。

ステファノを訴えた人々は、異国から帰国したユダヤ教徒で、エルサレム神殿と律法に人一倍の思い入れを抱いていた。ステファノを何としても陥れたいと画策して、最高法院の裁判に持ち込んだ訳である。死罪が避けられない訴えが出され、最高法院に集まった人々はステファノに注目した。ステファノは、全く不利な証言がなされているにもかかわらず、動じることなく、一点の曇りもない晴れやかな「さながら天使の顔のように見えた」と伝えている。彼がキリスト教界における最初の殉教者になった。